



反米・反イスラエル闘争を柱とする味方の再編

一九八五年七月一〇日

1 味方の矛盾解決の努力

A（南レバノン軍）に対する追撃――A（南レバノン軍）に対する追撃――

項目合意として味方内矛盾を解決する努力を結実させた。

イスラエル・ラビン国防相が「イー・ハレバノン・アラブ人民の闘いをスラエル開拓やく以来の経済危機で、より前進させる。一部の弾薬備蓄は、七三年の中東戦争時と同じレベルまで減ってしまった」と警告を発しているように、NDF（レバノン民族民主戦線――軍事衝突は六月一八日にアマル・L軍事予算の削減にふみこまるをえないほど、イスラエルの経済危機は深刻化している。

南部被占領対峙とTWA航空機を通した反米・反イスラエル闘争など

の敵に対する非妥協な対決・敵にいた向かう意志が味方内の矛盾対立を克服する客観的な条件をつくり出していったといえるだろう。その分、

一三項目合意自身を実行する主体的

敵の心臓部が経済混亂に陥っている時、外延にあたる南部レバノンの反占領闘争――イスラエル軍とSL

レスチナ民族救済戦線による一三

六月一日に提出された停戦案以降、安保理によるベイルート停戦要請などのレバノン問題の“国際化”的動

目次

反米・反イスラエル闘争を柱とする味方の再編	1
6・18合意 13項目全文	6
JCC（共同連携委員会）の会議	7
レバノン民族同盟戦線声明（主旨のみ）	7
UWPF（労働者勢力組合）リーダーのカマル・シャティラ氏語る	8
文相兼労働相のサリム・ホス氏、大ベイルートの治安確立について語る	8
PNO（大衆ナセリスト組織）のムスタファ・サアド氏、ジョン・ラット氏訪問	9
パレスチナ民族救済戦線綱領	9
JRA声明	13
激動の中東ドキュメント（1985年6月10日～7月10日）	13

きや六月八日のアラブリーグ評議会での介入やアラブ首脳会談によるレバノン問題のアラブレベル化によつて、レバノン問題の解決をはかるうとする動きが出てきた。

アマルを中心とするレバノン政府側は右翼との内戦を開拓すべくニューセキユリティープランの西ベイルート・南部への実行をもつて東ベイルートの右翼民兵の武装解除を求める意向であったが、軍事衝突が拡大するにつれて、味方内矛盾は敵の政治的PSP（進歩社会主義者党）なる左派の間でもアマルの行動に政治的に同意しつづけ、解決形態に批判的なPNSF（新治安計画はキヤンプ内の治安権・武装権堅持）を主張し、アマルは「新治安計画はキヤンプ内にも適用すべき」という立場に立ち、六月一日停戦案以降も合意をつくりえずについた。

六月に入つて以降は、ダマスカスで、アマル・LND・PNSF三者がシリアのカッダム副大統領の仲介の下に話し合いがもたれ、六月一四日のTWA機制圧闘争の反米・反イスラエル戦の先鋭化の中で、合意PNSFの討議合意に基づいてその実行をはかること、レバノン人同様、PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦として先鋭化していく。それは米レーベン政権が「反テロ」の名において強硬な手段を次々と打ち出したためであつた。一五日、北カロライナ州フォートブラッグから中東に向けて米はデルタ部隊を出動させた。（この部隊は八三年のグレナダ侵略、八〇年の在イラン米大使館捕虜救出作戦に出動した全員志願兵からなるエリート対テロ部隊である）そして一六日には、ベイルート沖に米第六艦隊の第一機動隊のタスクフォース（原子力空母ニミッツ・原子力巡洋艦・護衛ミサイル駆逐艦）が登場してきた。

国家保安アドバイザーのマックフーレンは「米国は譲歩しない。相手に譲歩させる。イスラエルにシーア派捕虜の釈放も要求しない」と一日表明し、力によってあくまでも対決する姿勢を示した。この緊張状態を緩和すべくナビーハ・ベリは機関にともない、そこから連行されたレバノン住民たちである。イスラエルが設置したアンサール監獄の閉鎖にともない、そこから連行されたレバノン住民たちである。イスラエルの措置は、ジエネーブ協定違反として国際法上も非難されてきた。

その意味で、戦士たちの要求は左派はもちろんのこと、アラブ世界全体に手段は別にして正義の闘い・正義の要求として認知されるものであつた。レバノン政府の中でも司法大臣と南部大臣であり「反イスラエル抵抗大臣」を自認するナビーハ・ベリは闘争の要求を支持し、ベイルートにとつても、アンマン合意に基づくパレスチナ・ヨルダン合同代表団の設置、JCCの設置、PNSF代表による共同連携委員会（JCC）の設置、以上を基軸に合意した。

六月一八日、TWA機制圧に对抗して米政府が国務省対テロ対策を軍事的に検討し始めた頃、アマル・LNDF・PNSF間で「三項目合意」を成立させた。その基本は、第一にすみやかな軍事停戦を実行すべく軍事衝突前の位置にアマル・第六旅団（シティープラン下のキャンプの位置づけとして、「キャンプはベイルート外法権的にしない」）イスラム勢力とPNSFの討議合意に基づいてその実行をはかること、第二に、ニューセキユリティープラン下のキャンプの位置づけとして、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

O憲章に基づく指導部としてPNSFの討議合意に基づいてその実行をはかること、レバノン人同様、PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

月二五日、カラミ首相の下に開かれ、レバノン国内治安維持軍指揮官も同席し、ベイルートの治安維持、グリーンライン沿いの東西交通路再開のため、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

O憲章に基づく指導部としてPNSFの討議合意に基づいてその実行をはかり始めている。また、この一三項目合意の方向は、以降、実行されることは、第二に、ニューセキユリティープラン下のキャンプの位置づけとして、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

Fを認め、レバノンにおける問題解決をPNSFを通して行うこと、第五に、その実行の監督のためのアマ

ル・LNDF・PNSF代表による

連携線（LNDF）が七月九日ダマスカスで結成された。このLNDFは、他の宗派・地域に適用され、また、そうならない限り、建国の安定期ははかりえないであろう。

2 反米・反イスラエル戦の先鋒化

レバノン左派勢力にとっても反米・反イスラエル戦の激化の中で味方の團結を必要としているし、PNSFがさし迫っている中で、アンマン合意に基づくパレスチナ・ヨルダン合同代表団の結が緊急に問われている。

六月一八日、TWA機制圧に对抗して米政府が国務省対テロ対策を軍事的に検討し始めた頃、アマル・LNDF・PNSF間で「三項目合意」を成立させた。その基本は、第一にすみやかな軍事停戦を実行すべく軍事衝突前の位置にアマル・第六旅団（シティープラン下のキャンプの位置づけとして、「キャンプはベイルート外法権的にしない」）イスラム勢力とPNSFの討議合意に基づいてその実行をはかること、第二に、ニューセキユリティープラン下のキャンプの位置づけとして、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

月二五日、カラミ首相の下に開かれ、レバノン国内治安維持軍指揮官も同席し、ベイルートの治安維持、グリーンライン沿いの東西交通路再開のため、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

O憲章に基づく指導部としてPNSFの討議合意に基づいてその実行をはかり始めている。また、この一三項目合意の方向は、以降、実行されることは、第二に、ニューセキユリティープラン下のキャンプの位置づけとして、第三に、LNDF・アマル・PNSFの連携を強化し、シリアとの同盟を強め、反帝・反イスラエル戦を強めること、第四に、PL

Fを認め、レバノンにおける問題解決をPNSFを通して行うこと、第五に、その実行の監督のためのアマ

ル・LNDF・PNSF代表による

連携線（LNDF）が七月九日ダマスカスで結成された。このLNDFは、他の宗派・地域に適用され、また、そうならない限り、建国の安定期ははかりえないであろう。

これらとの共同のイニシアチブにPLOの政治イニシアチブを解消していくことをアンマン合意は許している位置にあるためにPNSFが形成され、パレスチナの指導部が二分されてしまったのである。

しかし、反米・反イスラエル戦が先鋭化すればするほど、米への妥協・話合いの場づくりとして展開される“和平”イニシアチブは反動的役割として登場してござるをえない。敵と味方の政治交渉は物質的基盤を土台としてなりたつており、物質基盤の強化（どくにアラブ勢力の団結の実体化）をめざす左派勢力は反米闘争強化をバネに内部の統一をはかっている。

それに対して、ムバラク・フセインイニシアチブに共同するアラブアーティニシアチブは、敵・米・イスラエルへの条件闘争をはからざるをえないし、敵の妥協よりも味方の妥協によつてしか“条件”は成立しえない。フセイン訪米後、“パレスチナ・ヨルダン合同代表団の予備交渉を六月中旬開く”とヨルダン外務大臣チナ人の人選・代表の位置・PLOとの関連の不明確さの中で、人選の

月一〇日現在、至っていない。しかし、米の中東政策——レーガン案の実体化に向けてPLO執行部とイスラエルの妥協を調整していくだろう。フェイセン訪米による米政府との協力確認の結果、六月二〇日には対ヨルダン経済援助二億五〇〇〇万ドルが米上院で可決され、下院では“イスラエルとの直接交渉を開始したら与えるという条件付援助とするよう外交委員会は要請している。七月一日からは、ヨルダンで米軍との二週間にわたる合同演習が開始されるなど“和平”イニシアチブの集約の方向がイスラエルとの直接交渉による“和平”を通して、米帝の中東戦略の一翼に位置した共同体制を深めていく危険な動向が一步ずつ実現されようとしている。

の実行を急いでいる。合同代表団の実体化づくりを通して米政府との交渉をまず実現するというところに重点を置き、歐州の中でも、ムバラク点アラファト路線に好意的なイタリア、フランスへヨルダン・パレスチナ合同代表団を六月二五日派遣したこれらの国は相互承認とPLOの当事者としての参加をうたったベニス宣言（八〇年）の推進国であり、PLOはフェイイン・ムバラクイニシアチブに合流したまま個別利害の条件づくりをはかっている。

その分、レバノン・シリア・パレスチナ（PNSF）勢力との対決を拡大させ、反帝勢力はアラファトを敵規定しており、和解の条件はますます遠のいている。

中東の二つの路線——反帝・反イスラエル、アラブの團結を第一義とする道と米・イスラエルとの和解交渉を第一義とする道——は、今後の中東の政治的・経済的目的意識的な展望の違いの現実として分解を余儀なくしている。加えて、旧植民地支配のあり方や抑圧を不満とする人民熱

力は、他の反帝アラブ諸国との闘いは鼓舞されつつ、人民革命をおし進めようとしている。

スー丹の反ヌメイリ新政権の登場は、背後をおびやかされるエジプトにとっては、ますます、米・イスラエルとの和解による解決へのアクセルを踏ませるだろうし、イラン・イラク戦争の恒常化は、中東全体の不安定な恒常化を促進し、民族的岐ずなであるイスラム教指導部による階級を越えた調整能力を増大させざるをえない。レバノン建国の安定化手法として、今後もイスラム教宗派内の指導調整機能は拡大していくだろう。

問題は、こうした宗教的・民族的調整機関を反帝勢力指導部が、どのようにその進歩的側面を統合しつつ反帝の中東和平ニシアチブを形成していくかに、かかっている。

現在、反帝勢力のかなめたるシリアがその統合力を維持しており、その力に支えられて共産主義者や革命勢力も民族的枠に合流しつつ階級的利害を貫く方向を模索している。反

1985年10月31日 第2号 月刊 中東レポート

ク、フランクリント空港爆破、エルサルバドルでの米海兵隊攻撃など反欧・米文明テロは未開の野蛮人の仕業である。我々は適正な抑止をもつて対処するが、それは我々が根性がないためではない。ルーズベルト大統領の発言の真意を覚えておいてほしい。“アメリカ人はすぐに腹は立てないが、一度腹を立てたら、その怒りを鎮めるのは、燃えさかる火を消すのと同じ位むずかしいのだ”と、いうことを」。

勢力への対決戦線固めを急いだ。緊張を極度に高めつつ、同時にイスラエルは、シーア派捕虜三一名を「ハイジャックと無関係」という口実で釈放し鬭争目的が意味のないものであるように世界に宣伝しまくった。敵が軍事的にベイルート沖を制圧し、同時に東ベイルート地区に米軍・イスラエル軍将校が潜入し、右翼部隊との共同を始めたといわれた。敵は「反テロ」を口実にレバノン建国への介入をはかるうとしており、味方側は、南部に至る八〇キロメートルの海岸線一帯に臨戦体制をとり急襲にそなえた。

一方、人質のアピール（「我々は自分たちの意志でこのアピールを送る。決して軍事行動をとらないようになります。イスラエルがレバノン人を釈放するよう米政府は説得すべし」）は米国世論を二分し、レーガンの強行措置批判が増大し、ナビーハ・ベリラも乗客の自由行動・インタビュー・交信を認めつつ敵の軍事対決に政治的・人道的なやり方で闘いの根柢を世界へ示そうとした。「乗客の安全のために米政府と友好的な西側諸国大使館内に彼らがとどまつてもよい。条件としてイスラエルがシーア派捕虜を釈放した後にそこからすみ

やかに解放される"とナビーハ・ベリは、米政府と西側諸国政府の間に、ある矛盾をさらに利用しつつスイス・イタリア・フランス政府などの協力要請を求めた。当初、協力的だつたこれらの政府は、ブッシュのまき返し訪欧と軍事戦回避のために方法を持ちえず、この方法は実行されなかつた。極度の緊張に対し、結局、シリアがレバノン政府との共同の下に解決に乗り出した。シーア派住民の釈放を人質解放後に近く行うといふ敵の表明があり、政治的宣伝の使命を果したことと軍事対決回避のため乗客をダマスカスに移送し解放した。

ばかりか、第二にイスラエルの矛盾・西欧と米の矛盾をつき敵の同盟にゆきぶりをかけ、第三に味方内にある矛盾を反米闘争へとけん引し、第四にゲリラ戦術上の意表をつく展開で、現在における敵の“反テロ”的体制を越えていく柔軟な対応を示した。

イニシアチブ

力内の反米・

力は、他の反帝アラブ諸国との闘いは鼓舞されつつ、人民革命をおし進めようとしている。

スー丹の反ヌメイリ新政権の登場は、背後をおびやかされるエジプトにとっては、ますます、米・イスラエルとの和解による解決へのアクセルを踏ませるだろうし、イラン・イラク戦争の恒常化は、中東全体の不安定な恒常化を促進し、民族的岐ずなであるイスラム教指導部による階級を越えた調整能力を増大させざるをえない。レバノン建国の安定化手法として、今後もイスラム教宗派内の指導調整機能は拡大していくだろう。

問題は、こうした宗教的・民族的調整機関を反帝勢力指導部が、どのようにその進歩的側面を統合しつつ反帝の中東和平ニシアチブを形成していくかに、かかっている。

現在、反帝勢力のかなめたるシリアがその統合力を維持しており、その力に支えられて共産主義者や革命勢力も民族的枠に合流しつつ階級的利害を貫く方向を模索している。反

– 5 –

帝・反イスラエル民族主義を当面の結集軸としつつ、各コミュニティの普遍的利害——人民を中心とする利害によって統一されるところの——を住民工作・組織化として持続していくことこそ問われている。政治攻防の力学に指導が目を奪われず、思想・文化・経済関係における人民の共同のきずなをつくり出さねばならない。

（二）アマルと（レバノン軍）第六旅団は、戦闘開始前の位置にもどること。キャンプで人道的諸組織に人道的任務遂行をさせる。

（三）第六旅団は、戦闘開始前の任務にもどること。

（四）全ての釈放された捕虜、疎開した人々はキャンプや自分の元の位置にもどる。彼らの損害回復を助けること。

（五）和解へむけた人民セミナーを開催する。これはレバノン・パレスチナ両人民の憤激その他のわだかまりを止揚するため。

（六）在ベイルートキャンプの治安維持はベイルート治安維持の一部である。ダマスカス開催のイスラム会議で設置された治安維持委員会は、

（七）ベイルート以外のレバノンの

開催する。

（八）レバノンの諸勢力が合意した治安維持計画、またはレバノン政府が決定した治安維持計画による部分

（九）この共同連携委員会には、ア

マル・L N D F・P N S Fが入り、

（一〇）L N D F・アマル・P N S

Fは三者の民族的闘争確立、武闘を

含むあらゆる、多種多様の闘争形態

を推進させ、全ての緊急問題を解決し、

（一一）L N D Fとアマルは、P L Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一二）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一三）L N D Fとアマルは、レバ

ノンにおけるパレスチナ人同胞に適

（一四）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一五）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一六）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一七）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一八）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（一九）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二〇）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二一）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二二）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二三）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二四）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二五）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二六）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二七）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二八）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（二九）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三〇）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三一）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三二）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三三）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三四）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三五）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三六）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三七）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三八）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（三九）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四十）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四一）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四二）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四三）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四四）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四五）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四六）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四七）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四八）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（四九）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（五〇）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線に立ち帰

（五一）L N D Fとアマルは、P L

Oを自ら宣言した政治路線

U W P F へ勤労者勢力
組合ノリーダーの力マ
ル・シャティラ氏語る

西ベイルートにおける無法さに抗議するために我々は、これを六月二一日蜂起と位置づけ、西ベイルートおよび郊外にアマルがヘゲモニーを強制し、アマルカントン作りをするのに対抗しようとした。ところが、アマルのミリシアは、不当にもスト、参加商店に営業を強要して回ったり、我が組織事務所を弾圧・占拠したりしている。

一日蜂起と位置づけ、西ベイルートの組織の原点は、人民の希望、痛み、期待と有機的つながりを堅持していくことにある。史的には、七年二年の選挙で初議席を獲得し、レバノン政治に登場を果たした。この時、政治屋にならないように、組合リーダー達と、組合員全員に対し、議席獲得という勝利に酔いしれてはなら

ない。政治的にどういう事がといえども、西ベイルートのみならず、東ベイルート（東西ベイルート境界線を含んで）にも治安確立するための政府の措置が必要なのである。強調しておくが、大ベイルート統体に治安確立する計画は、ベイルートを单一の治安地域として統合すること、この治安確立をレバノン軍・I S F の合同部隊で担うこと、これらを規定する政治決定が下されねばならない。

従つて、大ベイルートに関するこの政治決定を下すには、閣議を開催して決定するか、または内閣改造してこの決定を下すか、いずれの方

法をとらざるをえないだろう。（同紙注——カラミ内閣は四月中旬以来、閣議召集していない。）

中東レポート第1号正誤表	
段 2	かつてのLFの盟友→削除
2 3	イクリム、ハルウア→カルウア
17 3	キルヤー・イクリム→モナ・モナ
19 3	エジプト前大統領アサド→モナ
20 3	シシェル・サミー→モナ
3 4	マホメット・ミシェル・サミー→モナ
4 2	ヒズボラヒ→モナ
21 2	ハジビッラー（「神の党」）→モナ
22 4	ジャービル→モナ
	ナビ・ベリ→モナ
	クヒヤ党→モナ

P N O （大衆ナセリスト 組織）のムスタファ・サ アド氏、ジョンブラット 氏訪問

ディリースター
六月一七日

1 六月二一日、西ベイルートで組織したストライキの目的は何か？ 西ベイルートにおける無法さに抗議するために我々は、これを六月二一日蜂起と位置づけ、西ベイルートおよび郊外にアマルがヘゲモニーを強制し、アマルカントン作りをするのに対抗しようとした。ところが、アマルのミリシアは、不当にもスト、参加商店に営業を強要して回ったり、我が組織事務所を弾圧・占拠したりしている。

一日蜂起と位置づけ、西ベイルートの組織の原点は、人民の希望、痛み、期待と有機的つながりを堅持していくことにある。史的には、七年二年の選挙で初議席を獲得し、レバノン政治に登場を果たした。この時、政治屋にならないように、組合リーダー達と、組合員全員に対し、議席獲得という勝利に酔いしれてはなら

ない旨、注意を喚起した。皆と共に、事務所の掃除、食事準備など、私も自ら担い、人々の生活感情の共有に努めたものだ。

八〇年以来、我が組織は、軍事・大衆組織として、「人民の民間防衛（組）」を作ってきた。八三年には、ボルジ・バラージナの私の事務所を第六旅団が攻撃し、武器を接收された。八四年二月九日、西ベイルート蜂起後の解放・勝利直後、我々はアマルとの代表者会議をもち、次のように語った。すなわち、西ベイルート解放は、全政治潮流の戦士が一致団結してなし遂げた事業であること、U W P F は、いかなる党派であれ、その党派の独裁に反対すること（以前は、カタイエブに反対していた）、今後の西ベイルートの運営には、我々の意見をも反映さすべきであること。この会談には、次の人々が参加した。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

ところが、アマル指導部は、自党の好き勝手に西ベイルート統轄を行なう合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

止符を打ち、もはやこれ以上傍観で

行われているやりすぎない事柄に終りたい位になった（諸勢力の）武装

一員として建設していくという立場をとっている。しかし、我々が参加をとっている。しかし、我々が参加をしておらず代表も送っていないよ

うな合意には賛成できない。

アマル——ナビー・ベリ氏
フセイン・ヤテム氏
他数名
U W P F —カマル・シャティラ
ムスター・アラマ

a まず全党派ミリシアの武装解除。なぜならミリシアは、レバノン統一、シオニズムからの解放の障害物であるから。もしある党派のミリシアが、対シオニズムのみにむけられ、他党派の政治的自由を脅かさないというなら、これは歓迎する。しかし、そういうミリシアは存在しない。

b 爭国一致内閣のかわりに、高等国民評議会を設置する。現在の内閣

多大な犠牲をおしまなかつた。
PLOは、民族的目標達成のためのパレスチナ人民の闘争の意志と統一を表現しているものだ。従つて、ようしたり、パレスチナ民族解放運動を投降させようとしたりするすべての策動・陰謀に対する最も重要な砦であった。パレスチナ人民にとっては、自らの民族的権利を、すなわち祖国への帰還、自決権行使、パレスチナの民族的・土地に独立、パレスチナ建国を獲得するための最も有効な武器である。

ところが、PLOが内的、外的危機にさらされている。これらが民族の大義をおびやかしている。パレスチナ人民をPLOが代表する権利、

PLOの独自性、反帝国主義、反シオニズム、反反動、反投降の民族綱領、これらが危機に直面しているのだ。

エジプトがサダトの政策の結果、

アラブ・シオニスト紛争から戦列脱落した。エジプト政府はキャンプデービッド合意、エジプト－イスラエル（和平）条約に調印した。この事

実によつて、帝国主義とシオニズム

は、アラブ地域で攻勢強化していく

・全分野で直面している困難に対し

て、この指導部は責任がある。

パレスチナ人民は、民族の大義、

PLOとして成果を堅持してきた。

パレスチナ諸組織・勢力、民族主義的人士は、逸脱した投降主義指導部の全政策を拒否している。すべての可能な手段を尽して、これらの諸勢力は、反帝・反シオニズム・反反動勢力として、PLOが自らの民族主義的役割を継続して果すよう努力してきたが、今や敗北した。

逸脱した投降主義路線展開の指導部は、非合法な分派的PNCをアンマンで開催しただけでは満足しなかつた。おまけに八五年二月一日には、フェイイン王イニシアチブの基本要素に対する対応である。これは投降主義的な国連安保理決議二四二、そして、「土地とひきかえの平和」方式の受け入れに立脚している。そうして、パレスチナ右翼はパレスチナの

ものに調印したのだ。これは、非合法の第一七回PNCで一度否定した

法の第一七回PNCで一度否定した

法

- 6 逸脱路線を粉碎するため闘う。なら、それが非合法であるから。それはパレスチナ人民の意志を代表していない。PLOは、その合意に縛られない。この合意を受け入れたり、この合意実践に参加する者はすべて民族主義の立場を離れたものとみなす。
- 3 逸脱路線を粉碎するため闘う。逸脱路線はPLOの成果を横取りし、PLOの本来の路線の提唱者を除外するものである。PLOをもとの民族主義路線にもどし、PLOの成果を防衛する。
- 4 被占領地内およびパレスチナをとりまく全戦線がら敵シオニストに対する武装闘争を強化する。民族的任務を展開する能力をもつと備える。どうにパレスチナ革命諸勢力を再編する。
- 5 被占領地内のパレスチナ民族戦線(PNF)を反逸脱・反さん奪主義で闘う。すべての組織・勢力・民族主義人士との連携をもつて再活性化する。再活性化は、シオニストの占領軍、シオニストのあらゆる行為・もくろみと闘う。PLOの民族主義綱領にのっとらねばならない。そして、アンマン合意破棄、パレスチナ問題に介入し
- 性を保証するため、逸脱路線、また、その提唱者を除去するために闘う。
- 2 場所がどこであろうと、パレスチナ組織・勢力・民族主義人士がこの戦線を形成する。戦線は、この政治綱領に合意する人なら誰でも参加することができる。
- 3 戰線内の関係は、最前線で闘うための民主的原則にのっとる。
- 4 戰線は民族主義指導部が指導する。決定は総意(全員一致)による。全員一致に到らぬ場合、各党派は自らの立場を独自に宣伝する権利を有する。
- 5 戰線は、主要任務遂行のために特別委員会(複数)を設置する。いくつ設置するかは戦線の必要性により決定する。各特別委員会は具体方針と規約を作成し戦線指導部がそれを決定する。
- 6 戰線結成後、戦線は事業を組織するために規約に合意せねばならない。

〔パレスチナ民族救済戦線参加組織〕

旧民族連合派 ファタハ整風派 アブ・ムサ派

人民戦線総司令部派 アハメド・ジブリル

パレスチナの土地併合をねらうヨルダン政府の反動的政策およびその手先に対しても闘う。

6 米国のパレスチナ問題抹殺主義方針に加担せんとするヨルダン政権の政策に対して闘う。これらは、パレスチナの大義を抹殺し、パレスチナそしてアラブの権利をひきかえにアラブ・シオニスト紛争に結着をつけ、パレスチナ人の唯一合法の代表たるPLOの権利を破棄することを意味し、それが奴らの目的である。

7 何者も奪うことのできないパレスチナ人の権利、なかんずく祖国への帰還権、自決権、パレスチナ人の唯一合法の代表たるPLOの指導下に独立したパレスチナ建国、それら権利の回復ができるよう、シリアとの戦略的同盟を強化する。被占領全アラブ領の解放ができるようシリアとの戦略的同盟を強化する。シオニストの侵略・略奪政策に対して、米国・シオニストの支配権獲得陰謀、どうりわけキャンプデービッド合意とクワード開拓・プランに対して共同して闘う。アラファートとフセインが調印したアンマン合意に対して、アラブ反動のすべてのもくろみに

8 南部レバノンでのシオニストの占領に対して、レバノン民族民主戦線、アマル運動と共同して武装闘争を強化して闘う。レバノンの主権・統一・民主的発展・アラブ的性格の回復をめざして闘う彼らを支援する。以下を保証すべく彼らと共働する。

9 在レバノン・パレスチナ大衆とキヤンプの保安。

10 パレスチナ人民の社会的利益と市民的権利。

11 中東において、帝国主義・シオニズムそしてその同盟者を打倒する民族的・進歩的任務を担うためにアラブ民族解放運動の諸勢力・諸党派との戦闘的関係を強化する。逸脱・さん奪路線、また、この路線提唱者に対する闘いを豊かにするために上記の関係を強化する。

12 シリア・リビア・ジャマヒリヤ・民主イエメン・アルジェリアの民族的・進歩的政権との関係を強化する。民族的任務を貫徹すること。

13 社会主義諸国とりわけ友好ソ連との戦闘的関係の強化・発展。世界中の解放・進歩・民主主義勢力との戦闘的関係の強化・発展。そして、わが戦線への支持を要請すること。

14 非同盟諸国・ラテンアメリカ・アジア・アフリカ諸国、そしてパレスチナ人民の正義の闘争を支持する全勢力との友好と協力を作ること。

15 エジプト民族主義勢力との関係強化。エジプト政権に対する共同戦線継続。PNCおよびバグダッド決議にのっとり、キャンプデービッド合意を倒すまでエジプト政権を包囲・孤立化する。

16 エジプト民兵との関係強化。エジプト政権に対する共同戦線継続。PNCおよびバグダッド決議にのっとり、キャンプデービッド合意を倒すまでエジプト政権を包囲・孤立化する。

17 在レバノン・パレスチナ大衆とキヤンプの保安。

18 パレスチナ人民の社会的利益と市民的権利。

19 在レバノン・パレスチナ大衆とキヤンプの保安。

20 パレスチナの土地併合をねらうヨルダン政府の反動的政策およびその手先に対しても闘う。

声 明

一九八五年七月一六日
J R A (ベカ一高原)

人民戦争戦線 サミール・ゴーシュ
パレスチナ解放戦線 タラト・ヤ
クウーブ
旧民主連合派
サイカ イサム・アル・カドリ
人民戦線 ジョルジュ・ハバシュ

をとろうと意欲をみせていく。

(B) きたるべく中東の最大の危機に備えて日本帝国主義政府は「シーレーン防衛」を掲げて、親米的なアラブ反動国家との合意取りつけを図っている。とくに日米安保条約を楯にして湾岸地域に自衛隊を派遣しようとしている。

(C) 日本帝国主義勢力が二一世紀にも生き残れる手段としてハイテク産業の利用を図るために、日本政府は中東の新市場開拓と同時にアラブ諸国を帝国主義の権益圏に従属させようとしている。

(D) 逸脱路線提唱者とシオニスト勢力・人士間の秘密・公然の接触と断固として闘う。なぜなら、そうした接触は、わが民族的権利を脅かすからである。

10 逸脱路線提唱者とシオニスト勢力・人士間の秘密・公然の接触と断固として闘う。なぜなら、そうした接触は、わが民族的権利を脅かすからである。

11 中東において、帝国主義・シオニズムそしてその同盟者を打倒する民族的・進歩的任務を担うためにアラブ民族解放運動の諸勢力・諸党派との戦闘的関係を強化する。逸脱・さん奪路線、また、この路線提唱者に対する闘いを豊かにするために上記の関係を強化する。

12 シリア・リビア・ジャマヒリヤ・民主イエメン・アルジェリアの民族的・進歩的政権との関係を強化する。民族的任務を貫徹すること。

13 社会主義諸国とりわけ友好ソ連との戦闘的関係の強化・発展。世界中の解放・進歩・民主主義勢力との戦闘的関係の強化・発展。そして、わが戦線への支持を要請すること。

14 非同盟諸国・ラテンアメリカ・アジア・アフリカ諸国、そしてパレスチナ人民の正義の闘争を支持する全勢力との友好と協力を作ること。

15 エジプト民族主義勢力との関係強化。エジプト政権に対する共同戦線継続。PNCおよびバグダッド決議にのっとり、キャンプデービッド合意を倒すまでエジプト政権を包囲・孤立化する。

16 エジプト民兵との関係強化。エジプト政権に対する共同戦線継続。PNCおよびバグダッド決議にのっとり、キャンプデービッド合意を倒すまでエジプト政権を包囲・孤立化する。

17 在レバノン・パレスチナ大衆とキヤンプの保安。

18 パレスチナ人民の社会的利益と市民的権利。

19 在レバノン・パレスチナ大衆とキヤンプの保安。

20 パレスチナの土地併合をねらうヨルダン政府の反動的政策およびその手先に対しても闘う。

激動の中東

ドキュメント
(一九八五年六月一〇日)
(七月一〇日)

ドキュメント
(一九八五年六月一〇日)

ドキュメント

(A) 六・一

① TWA闘争 第二回アルジェ、ベイ着陸。毎回、人質数名釈放。

② ジュネーヴ ダブリン委員会(平和と軍縮の為の国際労組委員会)開会。

③ ガルフ戦争 イラン軍が南部戦線で攻撃展開。

④ S L A、フィンランド兵(U N I F I L)二名釈放。

⑤ レバノン、アサド大統領に秘密書簡送る。米帝の内乱鎮圧、反革命支援用デルタ部隊、出動。(キプロスで待期?)

⑥ T W A闘争 ベイルート沖合に、第六艦隊の機動部隊、登場。米人質三二人が、レバノンに軍事行動に訴えないよう、要求を貫徹させるようにアピール送る(T Vでも放映)。イスラエルの強襲を予測し、アマルはベイルートとティール間海岸線八〇kmの警戒体制(アマル総動員)。

② リビア外相トレイキ氏、サウジ訪問。「ガサフィ少佐からの单一アラブ建国よびかけメッセージを持っての工作旅行」とロイターに語った。既

(B)

① ベイルート空港で、ヨルダン航空機のつとらる。ラルナカ、パレルモで給油。チュニジア着陸を拒否され、再びベイルートへもどる。アラブリート会長との会見要求するも、未貫徹。

② リビア 米帝軍撤収一五周年記年日。

③ ガンジー首相、アルジェリア二四時間公式訪問了。訪米の旅へ。

④ ジョンブラットが拠点のムクタッラで記者会見。「解放へむけた諸問題は、各個の個別組織が独自解決できるものばかりではない。特にシリアとの調整を重視せねばならない。レバノン在住のパレスチナ人の安全・保安維持問題も、パ

にシリア、ヨルダン、オマンを歴訪了。

③ シドン市のスンニリーダー、P N Oのムスタファ・サアド氏、P S Pのジョンブラット氏訪問。反ファシズム政権でアマル、P S P、シリアとの同盟強化の意義強調。ホスマーレバノン国防省の軍情報(匿名希望)によると、ベイルート空港配備の六五〇のレバノン軍部隊に対する撤退命令は出ていない。(cf、「レバノンの声」ラジオは、ベイルート空港配備の部隊のうち一八〇名は撤収した。空港セキュリティ部隊の四六名のみ残留、と報じた)

④ ベイルート市内、S S N P司令部が砲撃うける。ヴェルダン区とその近辺。

⑤ イスラエルのアトリット監獄に拉致された全アラブ政治犯との連帶集会、すわりこみ抗議、ベイルートで。

① 地方公務員、医療労働者約八万人スト。四月一日インフレーク(六月中旬からの賃金調整を

③ ガンジー首相、訪米、訪欧旅行から帰国途中で、ジュネーヴ入り。米欧日先進工業国が提唱する新しい世界貿易交渉への反対表明。

④ S D I実験へ。米、スペースシャトルのディスカバリー

(A) 六・一

⑤ ニューヨーク市 米・カナダ訪問中のイスラエルラカハ共産党幹部、フェリシア・ランゲル女史、ヨルダンの「和平」交渉策動を嘲笑し、国際会議方式によらねば、真的和平は成立しないと強調。

① ペレス 「中東和平」へむけた五項目公表。

② イスラエル・ラジオ 米国は、ヨルダンの交渉四段階方式を拒否。ペレス首相筋によると、「ヨルダン側は、六七年戦争で失ったヨルダン領の回復を對イスラエル交渉条件から外している」。

③ デンマーク訪問中のシャミール外相、「U N I F I Lの無能性を批判し、フィンランド兵の側にも落度がある、S L Aばかり責められる筋合では

ない」とS L A擁護。

④ ラビン 戦争相、イスラエルは、「領内攻撃には、いつでも反撃、報復する」と恫喝。(三〇〇名)

⑤ サウジアラビア、八五年度三年間のレバノン侵略戦争の被害、死者六五四名、負傷三八〇名)

⑥ サウジアラビア、八五年度三年間の通貨切り下げ。

① ベイルート空港で、ヨルダン航空機のつとらる。ラルナカ、パレルモで給油。チュニジア着陸を拒否され、再びベイルートへもどる。アラブリート会長との会見要求するも、未貫徹。

② リビア 米帝軍撤収一五周年記年日。

③ ガンジー首相、アルジェリア二四時間公式訪問了。訪米の旅へ。

④ ジョンブラットが拠点のムクタッラで記者会見。「解放へむけた諸問題は、各個の個別組織が独自解決できるものばかりではない。特にシリアとの調整を重視せねばならない。レバノン在住のパレスチナ人の安全・保安維持問題も、パ

世銀、親帝諸国へ大幅貸し出し発表。

① 韓国 二億二二〇〇万ドル

② フィリピン 一億ドル

③ パキスタン 八七〇〇万ドル

④ ルモロツコ 二八四〇万ドル

⑤ ケニヤ 三二六〇万ドル

⑥ チュニジア 二二〇〇万ドル

⑦ エジプト 五一六〇万ドル

⑧ ヨルダン機のつとり闘争 パ

⑨ レバノン人部隊六名は、ベイルート空港で、乗客、乗組員を避難させたあと、機を爆破。

⑩ リマ 第一回ベイルート着陸。要求は、イスラエルのアトリト監獄に拉致されたシーア派政治犯七〇〇人の釈放。米海兵隊員一名をみせしめの為、処刑。支援部隊一〇名、のりこみ。第一回アルジェ着陸。

① TWA闘争開始(アテネ→ローマ) 第一回ベイルート着陸。要求は、イスラエルのアトリト監獄に拉致されたシーア派政治犯七〇〇人の釈放。米海兵隊員一名をみせしめの為、処刑。支援部隊一〇名、のりこみ。第一回アルジェ着陸。

② TWA闘争開始(アテネ→ローマ) 第一回ベイルート着陸。要求は、イスラエルのアトリト監獄に拉致されたシーア派政治犯七〇〇人の釈放。米海兵隊員一名をみせしめの為、処刑。支援部隊一〇名、のりこみ。第一回アルジェ着陸。

③ TWA闘争・ギリシア系人質三人、T V会見、釈放される。アイルランドへ公式訪問。パレスチナ支持、反英・独立派人民の抗議デモにあう。(アイルランドはU N I F I Lに七〇〇人の部隊を派遣しておられ、イスラエルは、親パレスチナ的とアイルランド部隊を批判してきた)

④ イスラエルのトラック運転手組合(五〇〇〇人)、二十四時間スト突入。(料金四七%値上げを政府が認めないので抗議)又、市町村清掃職員八万人のスト、三日め。

(2) マロン派司祭、マルセル・アビ・カリド、説教で「レバノン救国の望みはシリアにしない」と強調。

ヨルダン 新公安局長にアブダル・ハディ・アルマジヤリ准将、任命。その他、若干の政府機構再編。ヨルダンで営業する外国銀行の株五一%のヨルダン化を主張していたヨルダン銀行頭取も、クビ。

① TWA闘争 • マドリードで、TWA、BOAC、ヨルダン航空事務所に爆弾。 • シュルツ国務長官、アサド大統領のTWA闘争解決援助努力（人質解放）を賛美。 • レガンも、アサド大統領に電話で謝意表明。

ヨルダンで米軍との合同演習（七月一五日まで二週間）その名も「かくし針」作戦、スタート。

イラク軍、一方的に攻撃停止を二週間前に宣言したが、本日で終了。

② TWA闘争 • 人質三〇人、米へ帰国。レーガン、出迎え

・カラミ首相、米のペイルート空港ボイコット措置に抗議。「米のイスラエル侵略援助政策が、こうした極端な闘争をもたらしたのである。レバノンは、文明・伝統も豊かで、人道も正しい国だから、それを破壊したのは、イスラエル」。

イスラエル 緊急統制経済措置に抗議し、一五〇万人の賃金労働者がストに突入。同措置は、通貨一五、九%の切り下げ、パン七五%値上げ、公務員九〇〇〇人の首切りを含む。

TWA闘争 イスラエルから三〇〇人のレバノン人政治犯釈放。

GCC工業相会議

① ベイルート空港保安再建の為各種委員会設置。(アミン大統領指揮)。

② 南部では、シドン市スンニ派リーダー、N・ガズリ氏宅にアマル、PNSF、LNDFなどが集合し、シドン市内の武器接收、対イスラエル戦継

① T W A 戦争への報復措置（ベイルート空港ボイコットおよびかけ一レー・ガン）に対抗し、レバノンは、アミン大統領指揮で、アラブリーグ緊急外相会議招請要請。レバノン政府は、覚書きを U N 議長あて提出。（米政府の親イスラエル政策こそ中心問題。この立場を取り続けると、レバノン人民の反米感情をつのらせる）

② アマル、P S P、P S P以外のトルーズ代表など、シリア訪問。

③ シリア軍副司令官兼副首相兼国防相のムスタファ・トラマ准将リビア訪問（七月六日）、アラブ輸送労働者連合書記長（リビアのバシール・アッシャリフ氏）、シリア訪問。この後、レバノンへ代表団を率い、レバノン人民の反米闘争支持の為の記者会見する予定。

④ 東西ベイルート分界線、一ヵ所のみオープン。

⑤ 東西ベイルート分界線、一ヵ所のみオープン。

⑥ レバノン、パレスチナ同盟強化、ダマスカス合意実践を討議し、声明発表。

(C) 社会主義インターナショナル
 部局会議、スウェーデンで開催。議題は世界平和と世界経済、社会主義インターナショナルの軍縮、中東、中米政策を検討すること。

(B) 六・一九 TWA 戦争継続。
 トロピカリで車爆弾。（七五人死傷、一五〇人負傷）アサド大統領一行、訪ソ。

(A) 六・二〇 TWA 戰争、ペイルート
 人質四人が TV インタビュー。
 ベリ、イスラ大使と捕虜交換の場所にスイスを利用する可能性について検討。
 レス、人質放放をおしつけようとしているが、米帝非難。
 米上院、対ヨルダン経済援助二億五〇〇〇万ドル承認。(レガンの要請と同額)一四二の票決。

(B) 六・二一
 ① トロピカリで車爆弾。（七五人死傷、一五〇人負傷）アサド大統領一行、訪ソ。
 ② 米、SDI 実験（ディスカバリーアイ号）失敗。

(A) 六・二二
 ① トロピカリで車爆弾。（七五人死傷、一五〇人負傷）アサド大統領一行、訪ソ。
 ② 米、SDI 実験（ディスカバリーアイ号）失敗。

現在、八五年九月三〇日に終了する会計年度内に、一三五億ドルの補正歳出予算を検討中。これに、ヨルダンがくいこんだ。上院外交委は、上院への提案時、①対ヨルダン援助の一部を現金で②対ヨルダン援助二億五〇〇〇万ドルを二カ年でなく三カ年で与える案を提出していた。同委提案は、内訳を以下に指定。

a 商品援助一五〇〇〇万ドル
b 開発計画援助→八五、八六年一六〇〇〇万ドル（各年三〇〇〇万ドル）
c 商品援助→八七年一六〇〇〇万ドル
開発計画援助→八七年一三〇〇〇万ドル

又、対ヨルダン援助につき、下院に「イスラエルとの直接交渉開始したら与える」という条件援助とするよう宣言。リボリでは、反アマルデモ・

で反テロ演説。TWA人質家族とも会う。反テロ論旨に同調したのは、一家族のみ。スマンはPSPのアクラム・シユハイエブ氏。

a I S F（通称セッターシが二日（木）からキャンプ内に入り、重、中火器接收開始。全会一致で、このスケジュール確認。

b 接收された武器は対敵前線に移送し、ベイルート内には保管しない。

六・二二

① TWA闘争・ベリ、人質奪回の為、米軍将校数名が東ベイルートに潜入したという情報入手した。・米帝、ベイブルート、ベカー上空を二回偵察・恫喝飛行。（レバノン領空侵犯）・モハメド・アリ、人質釈放にむけ、仲介できる事あればやりたい。

② 米議会、夏休み休会。

六・二三

① TWA闘争・ベリ、第六艦隊機動部隊撤退を要求。（米帝側は、同部隊はレバノン領

六・二四 イラン大統領、シリア訪問。
 六・二五 出発。（対テロ対策）

六・二六 TWA闘争 • 米、イスラエル、
 レバノン人政治犯三名釈放
 • ブッシュ、欧帝工作旅行に

六・二七 TWA闘争 • 米、イスラエル、
 対テロキャンペーン強化
 アピール。 • イスラエル、
 レーガンは、報復として、ベ
 イルート空港ボイコットを考
 慮中。

六・二八 TWA闘争 • ICAO（国
 際民間航空機関）、緊急理事
 会。危険な空港の総点検作業

六・二九 TWA闘争 • 人質三九人、
 EC首脳会談。（ミラノ）

六・三〇 TWA闘争 • 人質全員、陸
 路ダマスカス入り。 • 米の
 報復第一弾、ベイルート空港

シリア軍はレバノン駐屯部隊の二〇%を撤退させた。(テル・アヴィヴの戦略研究所ジヤツフェンターによると、八四年段階で、シリア軍は五万七千の部隊。ベカーとトリカリ周辺に重点配備)

(1) ヨルダン・パレスチナ代表団メンバー問題 東エルサレムのアル・コツツ紙(アラビア語)、ヨルダン・パレスチナ代表団の名簿みごみ発表。ガザ・ラシド・シャワ元ガザ市長、西岸ヒムスタファ・ナビ・ナチャ元ベブロン市長とサイド・ガナン(ナブロスの青年政治家)、更にヨルダン在住パレスチナ人二名が加わることのこと。この代表団が米のマーフィと会談するだろう。

(2) イスラム諸国会議(IOC)書記長、三日間のカタール公式訪問了。GCC等のアラブ首脳会議開催努力支持表明。(レバノン問題の国際化、アラブ化)

(七・八)

(A) (1) トリポリの戦闘二日目 シャバーン師ひきいるIUN(トウヒイード)対親シリアミリシア(ADPニアラブ民主党)世界運輸労働同盟アピール「ベイルート空港ボイコットはレバノン主権侵害、国際法違反、米国のテロリズム政策継続であるから、傘下組合は、米のベイルート空港ボイコット措置を弾劾しよう」

(B) (2) レバノンのイスラム各派代表がシリアへ集合、イスラム内の調整努力。一説には、ハジビッラーの精神的リーダーとされるファドラッラ師も出席。スー丹国防相、四日間のリビア訪問終了、帰国。リビアはスー丹の海、空軍訓練、兵站、輸送、装備援助を約束。

(C) (3) アブ・ムサ派の英文週刊誌「パレスチナ」によると、五月度被占領地内反イスラエルゲリラ闘争は三〇回以上。

(D) (4) レーガン(リビア、イラン、朝鮮人民共和国、キューバ、ニカラグアはテロリスト国家連邦だ!) イスラエル 八五年一月の閣

(E) (5) うちシーア派は一六万人) G C C 外相会議スタート カイロ・ソ連、エジプト経済協力会議了。八五年五月、八五年度両国貿易約七億ドルをとりきめ、七月に八五・九〇年貿易五カ年計画に調印する予定だったが、ソ連側の提案で、特に定めずに終了。モロッコ、ハサン国王、緊急アラブ首脳会議(七月二八日、カサブランカ)を再提案。

(F) (6) アラブ首脳会議長、アルジェ入

(G) (7) リビア訪問終了、帰国。リビアはアルジェのP L O筋・アラファト議長は緊急アラブサミットをチュニスで開催すること、アルジェリア大統領が出席することをめざし、アルジエ入り。

(H) (8) カストロのレーガン批判 ロリスト連邦國家(キューバ、イラン、ニカラグア、リビア)と名指されたのに対し、「レーガンこそ史上最悪のテロリスト」と反論。イスラエル機、北部トリポリのパレスチナキャンプ爆撃。(GCとアブ・ムサ派の基地計三カ所)

(I) (9) 領のオフィスでレバノンのN A F(民族同盟戦線)メンバーや会合。(TWA、H J闘争來、初の国際線着陸)

(J) (10) PLA部隊、ヨルダン着。西独のコール、トルコ訪問スタート。一二日まで滞在。(八〇年のクーデター来、トルコ訪問する西欧諸国元首のトップバッター)

(K) (11) PLA部隊、ヨルダン着。西独のコール、トルコ訪問スタート。一二日まで滞在。(八〇年のクーデター来、トルコ訪問する西欧諸国元首のトップバッター)

(L) (12) カイロ・イスラム法施行を要求するハーフェズ・サラマ師のデモ(七月一一日夜)に突然許可(内務省のデモ禁止令に對し裁判所が許可したもの)

(M) (13) 国際線着陸)

(A) (1) 南部の「セキュリティ・ベルト」二カ所、決死車爆弾闘争。(死者一七名)

(B) (2) シリアのハッダム第一副大統統のオフィスでレバノンのN A F(民族同盟戦線)メンバーや会合。

(C) (3) PLA部隊、ヨルダン着。西独のコール、トルコ訪問スタート。一二日まで滞在。(八〇年のクーデター来、トルコ訪問する西欧諸国元首のトップバッター)

(D) (4) カストロのレーガン批判 ロリスト連邦國家(キューバ、イラン、ニカラグア、リビア)と名指されたのに対し、「レーガンこそ史上最悪のテロリスト」と反論。イスラエル機、北部トリポリのパレスチナキャンプ爆撃。(GCとアブ・ムサ派の基地計三カ所)